

1 学校の活用事例

(3) 年間を通じた計画的な活用

年間を通じた計画的な活用事例は、
見開き2ページで、
左側が「年間計画」、
右側が「その一部の研修」
となっています。

【事例21】年間を通した計画的な活用

すべての研修内容を取り扱った事例

※ 教職員の専門性の向上のため、すべての研修内容を取り扱った取組を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月 6日	○ 年間研修計画について	
②	5月 8日	○ ユニバーサルデザインの理論研修	■ I-1 「発達障がいの特性の理解」
③	5月11日 5月15日 5月18日	○ 実態把握	■ I-2 「実態把握と支援方法の検討」 ・実態を把握して共通理解を図る。
④	5月26日	○ 個別の指導計画の作成 ○ 園内の連携	■ III-3 「園内の連携」 ・職員一人一人のかかわりを確認する。 ■ II-1 「個別の指導計画の作成」
⑤	6月	○ 園内の視覚的な支援の見直し	
⑥	7月	○ 保育研究	■ III-2 「保育の展開」
⑦	8月 3日	○ 個別の指導計画の活用	■ IV-1 「個別の指導計画の活用」 ・子どもの状況から、個別の指導計画を見直し、作成し直す。 ■ II-2 「個別の教育支援計画の作成」
⑧	8月 5日	○ 学級づくり②教師の言葉がけ	■ III-1 「学級づくり」教師の言葉がけ
⑨	9月30日 10月 6日	○ 保育研究 ○ 保育研究	■ III-2 「保育の展開」
⑩	11月 12月	○ 学級づくり①指導や支援	■ III-1 「学級づくり」指導や支援 ■ III-1 「学級づくり」障がいの理解 ・指導や支援の在り方を考える。 ■ V-2 「研修成果の検証」 ・教職員の意識
⑪	1月13日	○ 個別の指導計画の活用 ○ 園内の連携 ○ 小学校への引継ぎについて	■ IV-1 「個別の指導計画の活用」 ・子どもの状況から、個別の指導計画を見直す。 ■ III-3 「園内の連携」 ・職員一人一人のかかわりを確認する。 ■ IV-2 「個別の教育支援計画の活用」 ・小学校への引継ぎ内容を検討する。
⑫	2月	○ 今年度のまとめ、次年度の方向性	

年間計画のうちの5月の取組

Ⅲ－3 園内の連携（幼稚園）

園内研修の取組（幼稚園）

園内研修において、園内の連携、役割分担について考えました。

◎ ねらい

園全体で取り組む発達障がいのある子どもへの指導や支援の在り方を検討する。

1 A君への教職員一人一人のかかわり

	担任	副担任	主任	預かり担任	園長	担任以外の先生
登園時	挨拶を交わしながら、身支度を集中して行えるよう支援する。	スケジュールを確認し、1日の見通しがもてるよう支援する。			保護者が安心して預けられるよう親子とコミュニケーションをとる。	
好きな遊びをする	遊んでいる様子を見守り、必要に応じて支援する。	遊びを見つけられるよう言葉かけをする。	必要に応じ、本児の活動を支援する。			遊びの中の約束を知らせ、友達と同じ場で遊べるようにする。
クラス保育 全体保育	全体への指導及び必要に応じて本児を支援する。	絵カードなどを利用して支援する。	クラスの活動からはずれた時は支援する。		個の活動を望む時は担任と連携をとり必要な支援をする。	他のクラスに入った時は戻れるよう支援する。
お弁当	様々な食べ物へ興味や関心を高められるように支援する。	弁当の片付けが自分で出来た時は認めてあげる。				
弁当後の好きな遊び・歯みがき	本児の様子を見守りながら、必要に応じて支援する。	食後は静かに遊べるよう言葉かけをする。		歯磨きを最後まで集中できるように支援する。		本児の様子を見守りながら、自分のクラスに戻るよう促す。
預かり保育	午前の様子を預かり担任に引き継ぐ。		活動によっては必要に応じて本児の活動の支援にあたる。	友だちとのかかわりを見守る。		
降園時	保護者に本児の様子を伝え、園での姿を認めてもらえるようにする。			流れを一緒に確認し、必要に応じて手を貸していく。		



お楽しみ会での教職員の協力

2 振り返り

- 楽しいこと、発見したこと、できたことは、近くにいる教師が認めたり褒めたりしていこうとすることを確認できました。
- 本児への支援の方法を職員間で、共通理解することができました。

【事例22】年間を通した計画的な活用

「学級づくり」を中心とした事例

※ 学級づくりを中心に、校内研修プログラムの研修シートの活用を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月10日	○ 年間研修計画について	
②	5月11日	※ 学級経営交流会	■ I-1 「発達障がいの特性の理解」 ・ 疑似体験を通して理解を深める
③	5月15日	○ 全体研修	■ I-2 「実態把握と支援方法の検討」 ・ 実態把握の観点等の理解を深める
④	6月29日	○ 授業研究に向けての確認	
⑤	7月23日	○ 全体研修 ※ 特別支援学校教諭を講師とした説明や演習	■ III-1 「学級づくり」教師の言葉がけ ■ III-1 「学級づくり」障がいの理解 ■ III-1 「学級づくり」指導や支援 ・ 各学級の取組を交流し、よい指導や支援を共有する
⑥	8月31日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	
⑦	9月18日	○ 校内授業研究1（授業参観と協議）	
10月23日～11月 2日		～授業研究週間～	
⑧	10月26日	※ 学級経営交流会	■ III-1 「学級づくり」指導や支援 ・ 各学級の取組を交流し、よい指導や支援を共有する
⑨	11月 2日	○ 授業研究週間の反省	
11月10日～11月30日		～授業研究週間～	
⑩	11月25日	○ 校内授業研究2（授業参観と協議）	
⑪	11月30日	○ 授業研究週間の反省	
⑫	2月 8日	○ 今年度の反省と来年度の展望	■ V-2 「研修成果の検証」 ・ 2月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識）

年間計画における7月の取組

Ⅲ－1 学級づくり ① 指導や支援

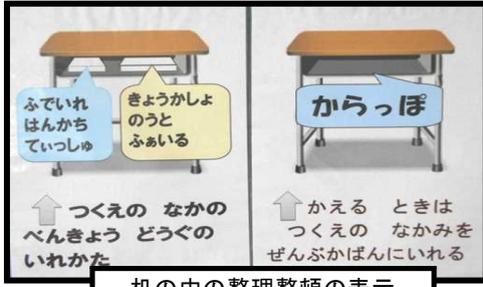
校内研修の取組(小学校)

～校内研修で、学級経営上の工夫について、教職員で交流しました。

◎ ねらい

通常の学級における発達障がいのある子どもへの配慮を含めた学級づくりの取組を交流し、指導上の課題や解決の方向性を整理する。

1 取組の交流

項目	項目ごとの学級づくりに関する取組交流
視覚的な支援の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に入る前に、教室の戸の表示を見て、自分から挨拶できるよう促している。 ・机の中の整理整頓ができるように教室内に机の図とその説明を表示している。また、帰る時は「かえりはからっぽ」を合い言葉にしている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>教室の戸に挨拶の表示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>机の中の整理整頓の表示</p> </div> </div>
学級を温める取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなのたからばこ」と称してがんばったことや、やさしい行いがあった時に教師がシールを貼り、いっぱいになったら、お楽しみ会を行い、温かい学級づくりに取り組んでいる。 この取組には「勝ち負け」がなく、全員が学級に所属しているという意識をもつことができる。 <div style="text-align: center;">  <p>みんなのたからばこ</p> </div>
静寂の時間の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間中に興奮した子どもクールダウンできるよう、授業の最初に教師が絵本を読み聞かせるようにしている。 ・授業中、いっさいしゃべらないで、一人で取り組む時間を必ず位置付けるようにしている。

2 振り返り

- どの学級でも、「視覚的な支援」「肯定的な言葉がけ」「静寂の時間の位置付け」に取り組むことにより、子どもたちが落ち着いて学習に取り組むようになりました。また、教師同士が互いの取組を交流し、高め合うことにつながっていると思います。
- 今後も、子どもの変容を分析し、より効果的な取組を行っていきたいです。

【事例23】年間を通した計画的な活用

「授業づくり」を中心とした事例

※ 授業づくりを中心に、校内研修プログラムの研修シートの活用を計画しています。

	月日	校内研修等の内容	校内研修プログラムの研修シートの活用
①	4月15日	○ 年間研修計画について	
②	5月20日	○ 発達障がいに関する研修	■Ⅰ－１「発達障がいの特性の理解」 ・疑似体験を通して理解を深める ■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
③	6月24日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
④	7月 3日	○ 校内授業研究1（授業参観と協議） ※ 町内合同研修を兼ねる	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑤	7月 8日	○ 1学期の反省	■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・7月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識）
⑥	8月26日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
⑦	9月 2日	○ 校内授業研究2（授業参観と協議）	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑧	10月 7日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	※実践ボックスの活用
⑨	11月11日	○ 学習指導案検討 ○ 日常の授業実践交流	
⑩	11月25日	○ 校内授業研究3（授業参観と協議）	■Ⅲ－２「授業づくり」 ・授業中の配慮について確認する
⑪	12月 2日	○ 発達障がいに関する研修	
⑫	1月27日	○ 今年度のまとめ	■Ⅴ－２「研修成果の検証」 ・1月の時点での成果を検証する （教職員の意識、子どもの意識） ・7月の結果と比べて検証する
⑬	2月24日	○ 次年度に向けて	

年間計画のうち、5月の取組

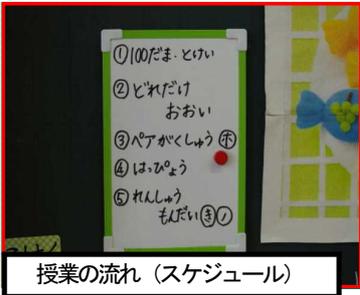
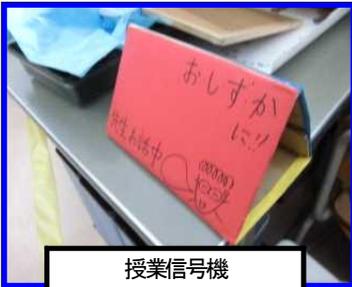
Ⅲ－２ 授業づくり

校内研修の取組(小学校)

～授業のユニバーサルデザインの工夫について、研修を深めました。

- ◎ ねらい
 通常の学級における発達障がいのある子どもを含めたどの子にも通じる配慮について考え、授業づくりで心がけていくことを整理する。

1 授業中の配慮

過程	子どもの主な学習活動	どの子にも通じる教師の配慮の重点
導入	<p>■何を、どのように学ぶかを見通す。</p>	<p>□ 課題を視覚的に理解できるようにする。</p> <p>□ 分かりやすい発問、指示に心がける。</p> <p>□ 授業の流れを示し、見通しをもたせる。</p>  <p>授業の流れ (スケジュール)</p>
展開	<p>■主体的に学習する。</p>	<p>□ 私語なしで、集中して学習する時間を位置付ける。</p> <p>□ ペアやグループで取り組む場を設定する。</p> <p>□ 授業のルールを視覚的な支援で徹底する。 ※例～「授業信号機」(写真右) 青→自由に発言できる。 黄→手を挙げて指名され発言する。 赤→先生が話している。発言できない。</p>  <p>授業信号機</p>
終末	<p>■学習を振り返り何を学んだのかを自覚する。</p>	<p>□ 考え方や解き方を教師があらかじめ、カードや画用紙にまとめたものを掲示する。 (このカードや画用紙はその後も教室内に掲示しておき、分からない時に振り返るよう促す。)</p> <p>□ 本時の学習で分かったことを確認する。</p>

2 振り返り

- 授業の流れを示すことで、子どもたちは安心して学習に取り組むことができるようになってきました。
- 「授業信号機」など、視覚的な支援により、教師の指示や注意がなくても、支援が必要な子どもが落ち着きました。
- ※ 今後も工夫してうまくいった取組をメモして、職員室に設置した「実践BOX」(写真右)に入れて共有していくこととしています。「実践BOX」は定期的にかけて、先生方全員で話し合うこととしています。

